



Title: 私たちが分かすべき未来への責任

❖ ああ年度末……

司書資格を取るための勉強をしていた3年前のことです。スクーリングのひとつ「情報サービス演習」は札幌市の東隣り北広島市の図書館が会場でした。

演習のメインとなるグループワークによるパスファインダーの制作・発表は、時間に追われて大変でしたが実に楽しい体験でした。また講義とは直接関係ないものの、北広島市図書館内に設置されている北広島市学校図書センターも興味深いものでした。市内全小中学校の学校図書館の発注・管理をセンターで一元的に行い、規模に関わらず全校同じサービスが受けられるものです。同センターの年度報告は図書館のHPから見るのですが、実際の活動についてもっと詳しく知りたかったと今になって思います。機会があれば当館のスタッフに研修させたいものです。

それはともかく、その時新谷講師（同図書館の館長）に言われ折にふれて思い出す言葉があります。それは「図書館員は速読ができなければダメだ」というもの。

私は速読ができません。昔ケネディ大統領の速読のエピソードに憧れて以来何度か練習してみましたが、どうも性に合わないというか、頭に残らない読み方しかできません。

というようなことを書いたのも、年度末に差し掛かって書き物が多い時期なわけですが、それは同時にいろんな資料も読まなくちゃ、仕事上読んでおきたい本も多数あるという状況な訳です。好きでやっている仕事なんだから文句言うなど言われそうですね。文句はありません。ただ、それにしても、ああ年度末……。

❖ マナーは誰のため？

指定管理を始めた当時、館内にはいろんな注意書きが張られていました。ダメ出しのオンパレードで、正直あまりいい感じはしませんでした。古びたものも多く、誰も気にしている風がなかったので、ある時大部分を撤去しました。その数60枚以上。その結果何が変わったわけでもなく、時に注意は必要としても基本的に利用者を信頼していいのだと思っていたわけです。

それが、このところマナー違反が目立ってきました。

まずは新聞。近頃シワシワになったり、折り目が不揃いになったり、あろうことかページが抜き去られたりということが、続発しています。新聞は何年も、あるいは永久に保存しなければならない大事な資料です。なくなった新聞を再び手に入れるのは、種類にもよりますが意外に大変なのです。

こういうことをするのはごく少数の人でしょうが、影響は小さくありません。図書館は誰にでも開かれた施設であり、見方を変えると皆で公共のマナーを守らないと保てない受身の施設なのです。次の方のために、未来の読者のために、手荒く扱わないでください。どうか持っていかないでください。ほしい記事があったら、コピーを頼んでください。また、バサバサと大きな音を立ててめくるのも控えてください。

それから、たいへん書きにくいことですが、異臭が館内に蔓延することがあります。この時期は館内の密閉度が高く、かつ空調が循環しているため、広がりやすくこもりやすいのです。また、自らを省みても自分の臭いには気が付きにくいものです。だからこそ、ある程度身だしなみには留意して来館していただきたく思います。あまり臭いが強い場合には、申し訳ありませんが退出をお願いする場合もあることをご承知ください。

他にもありますが、今回はこの辺で。公共図書館は文字どおり公共のものであることをどうかお忘れなく。

❖小学生の感想文

主催が全国学校図書館協議会と毎日新聞、後援は内閣府と文部科学省。何やら大層な感じですが、第61回青少年読書感想文全国コンクールです。2月22日付の本紙に、小学校高学年自由読書の部で大館南小学校5年生の富樫賢暉（よしき）君が、全国学校図書館協議会長賞を受賞したことが報じられました。

感想文を読ませてもらいましたが、奇をてらわずに等身大の言葉で紡がれた素敵な文章に驚きました。作文のタイトルがいいですね、「農業だって楽しそうだ」。“だって”が効いています。

選んだ本もいい。農山漁村文化協会（農文協）発行「農家になろう」シリーズの『イネとともに 水田農家佐藤次幸』（2012年）。このシリーズ、平成25年の児童福祉文化賞の、1点しか選ばれない出版物部門の受賞作です。いわゆる写真絵本（撮影・倉持正実）ですが、大人が読んでも楽しめるシタメになる本です。

ということで、よしき君の感想文も、全冊揃っている「農家になろう」シリーズも広く紹介したいので、中央図書館の児童コーナーで展示しています。ぜひご覧ください。（陽）